

評価結果の政策への反映状況報告書

令和2年3月6日

政策の名称	政策の目的・目標	政策評価の結果の概要	政策評価の結果の政策への反映状況
<p>京都御所等における見学学習プログラムの提供</p>	<p>児童・生徒・学生（以下、「児童等」という。）を対象とした京都御所等を題材（教材）とする学習プログラム（施設見学を含む。）を提供し、児童等の皇室施設・文化への理解の向上を図る。</p>	<p><b>（必要性）</b>                      学習プログラムの実施件数等は、平成29年度においては8件565名、平成30年度においては5件315名と多数の参加があったことから、学習プログラムへの需要が高いものであるとすることができる。</p> <p><b>（有効性）</b>                      参加した児童等へのアンケート結果において、皇室施設・皇室文化への理解について、「とても深まった」、「深まった」という回答が85.4%となっていることを始め、いずれの項目においても肯定的な回答が8割を超えている。また、学識経験者からも、皇室が継承してきた伝統文化の理解・促進にきわめて有意義である等の評価を得ているところであり、本事業は、当初の目的に照らして、有効性の高いものであるとすることができる。</p> <p><b>（効率性）</b>                      本事業は外部委託等を行うことなく、当庁職員のみで行っているものであり、人件費及び材料費以外の経費をかけることなく実施している。また、広報についても、京都市教育委員会等への通知のみで多くの参加の応募があり、費用をかけずに十分な成果を上げており、効率性の高いものであるとすることができる。</p> <p><b>（今後の課題）</b>                      アンケート結果や学識経験者からの意見を踏まえ、配付する資料の改善や参加型方式の参観を取り入れる等の検討を行う。                      また、参加者の大半が小学生であることから、今後は、京都市教育委員会を通じ、中学生、高校生、大学生の参加者が増加するよう、周知・広報を行っていききたい。                      加えて、今後も多くの参加者を募ることができるよう、飽きさせないためのプログラムに再構築するとともに、周知・広報については、宮内庁ホームページでも参加者を募集するといった工夫を図っていききたい。</p>	<p>アンケート結果や学識経験者からの意見をもとに、京都御所で行われていた儀式の様子が見える写真パネルを用いて、説明を行うといった改善を行った。また、参加型方式の参観の試みとして、紫宸殿の屋根に使われている檜皮や竹釘のサンプルに実際に触れることのできるメニューを取り入れた。その結果、参観者アンケートにおける肯定的な回答の割合が上昇し、例えば、解説や資料についての設問で96.1%（5.8ポイント上昇）、皇室文化等への理解についての設問で96.5%（11.1ポイント上昇）であった。</p> <p>また、大学生については、参加する学生の研究テーマに合わせた対応を取るよう工夫を試みた。</p> <p>これらの取組を進めていく中で、周知広報の拡大については、業務量の増加の影響などを勘案しながら、引き続き検討していききたい。</p>